

第4回本明川ダム建設事業 環境影響評価技術検討委員会 議事要旨

日 時：平成21年2月9日（月）13:30～16:50

場 所：L&L ホテルセンリュウ 4F 陽光の間（諫早市）

主な意見

○ 動物（陸域）、植物（陸域）、生態系（陸域）についての予測、保全措置の検討結果

【動物・植物】

- ・ 特にラン科の植物の移植については、土壌中や地上部の微環境に配慮した個体移植・監視を行うべきである。
- ・ ダム貯水池内の樹木の伐採については、必要最小限に抑え、環境に配慮すること。
また、洪水時に一時的に水没する畑や水田、建設発生土の処理場等においては、地域と一緒に樹木を植えるなどして、できる限り緑化すること。
- ・ ダム貯水池内が水辺環境としてどのように変化していくのかは、最終的に幾つかのケースについてチェックしていく必要がある。
- ・ 個体の監視については、専門家の意見等を含め、適切な監視ができるよう監視体制を整え、監視員への教育やフォローアップを行っていく必要がある。
- ・ 資料内容に具体的に何を指しているか、その根拠も含めて分かりづらい文章内容、資料となっているため、地元説明等を行う場合は分かりやすい内容とすること。
- ・ 保全対象種の中で表土まきだしを実施する種については、湿地環境が必要であるため休耕田などを利用して水が保たれるような環境づくりが必要である。
- ・ 新たにレッドデータブックが更新され、新たな重要種が加わり現地調査等で確認されている場合や確認された場合において、その都度フォローアップをしながら変わった場合は、また検討していく。

【生態系】

- ・ サシバが営巣地を近隣に移動する習性があるという根拠を、参考資料や調査結果等も含めて記載すること。また、現地調査資料、文献資料が区別できるよう文章表現を変えること。
- ・ 生態系ピラミッドは食物連鎖の関係を表した写真に変更すること。
- ・ サシバの生態で工事中、供用後においてモニタリングを実施した事例等があれば記載すること。

○今後の予定

- ・ 次回委員会は、2月24日（火）13時30分より同会場にて開催する。